

平成28年度

学校関係者評価 結果報告書

学校法人 名古屋安達学園

名古屋観光専門学校

平成29年 7月21日提出

はじめに

学校が発表した「自己点検・自己評価報告書」をもとに、学校関係者評価委員会が適宜 学校職員と面談し、学生アンケートによる意見解析、改善された施設の視察 地域における学校の評判、保護者と卒業生からの意見等 を総合判断し本年度の「学校関係者評価」を実施し致しました。

6項目において、昨年より改善された評価となり、教職員の努力が確実に教育成果に繋がっている事を確信する事ができました。

本報告書が学校改善の一助となり、益々発展されん事を委員一同祈念いたします。

学校関係者評価委員会

(1) 教育理念・目標

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(1)- 1 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	学則に定められた、学園理事長、校長をはじめ各学務長により時代・社会にそった理念・目的・育成人材像を常に確認し、必要な時には理事会・責任者会議を経て適宜 変更をする。	指摘事項はありません。
(1)- 2 学校における職業教育の特色は何か	4	専門職の技能をもって業界に貢献 社会人として高い人格を形成することを本校 職業教育の特色とする。	★前年度からの改善項目 指摘事項はありません。
(1)- 3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	H28年「新学校3年計画」を策定 前年度の成果と改善点、新たな時代の変化に対応した将来構想となっている。	社会経済の変動とニーズを充分考慮し、計画の修正を加えながら的確な将来構想「3ヶ年計画」を推進されていると評価する。
(1)- 4 学校の理念・目的・育成人材像特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	新年度のオリエンテーション、保護者会を通じて学生・保護者への周知を徹底。家庭への情報提供を増やし教育支援や就職活動のサポートを継続	保護者の教育への関心と協力体制が周知され、保護者から高い評価をうけている。教員の方の努力を高く評価したい。
(1)- 5 各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	職業実践専門課程に関わる業界・企業との連携が進み、業界のニーズに則した実践的カリキュラムへの変更と実習・研修を実施	指摘事項はありません。

今後に向けての学校の考え

新たな「学校3年計画」が策定されたが、3年間の社会環境・経済の変化はめざましく、必要に応じた計画修正が出来るよう柔軟な計画推進が求められる。また学生の学ぶ環境は、常に変化し続けている。今後 時代・社会環境の変化をふまえ、学生個々の将来を切り開くチカラを養わせる教育を実践してゆかなければならないと考えている。

(2) 学校運営

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

	評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(2)- 1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	学校理念・目標に基づき、運営方針は策定されており、各学科運営の教育指導・運営の基盤となっている。	指摘事項はありません。
(2)- 2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	事業計画は校長・学務責任者・事務長により、予算・人事・設備と連動し策定され総合事務局長・エリアマネージャーにより本部承認をへて実施されている。	指摘事項はありません。
(2)- 3	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか有効に機能しているか	4	学校組織図により、学務・広報・就職・事務が業務運営責任を担う。校務分掌表により業務は明確化されており、意思決定は敵的に行われる学務会議にて決定される。	指摘事項はありません。
(2)- 4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	全国5法人の合併にむけ「就業規則」等の見直しを進めている。	★前年度からの改善項目 指摘事項はありません。
(2)- 5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	名古屋安達学園 4校総合事務局にて各校の 教務・財務・組織整備を統括管理	指摘事項はありません。
(2)- 6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	名古屋安達学園 4校総合事務局にて各校の コンプライアンスを監視・指導	指摘事項はありません。
(2)- 7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	ホームページ・学校パンフレット・保護者会等で情報公開を行っている。	保護者・OBのホームページの閲覧・活用率が低いと判断する。今後 さらなる社会ニーズにそった情報公開に努めていただきたい。

(2)- 8

情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	3	学生情報システム(Nanet)での災害ネットワーク・就活情報の配信。4校共通の新成績管理システムへの移行を完了した。	名古屋4校の成績管理システムを新しく導入し業務の効率化を計画的に推進されている。
----------------------------	---	--	--

今後に向けての学校の考え

学生増により、教室・実習室の容量・数量の見直しを迫られている。従来の学校運営のシステムを大きく見直す必要がある。業務効率化の為にネットワーク・クラウド等によるITソリューションを進めるが、従来システムからの移行・習熟に時間的ロスが現在の課題となる。学務職員の(スキルの向上)と(世代交代)が重要と考えている。

(3) 教育活動

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(3)- 1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	学務責任者と学科長で行われていた編成・実施方針は、「教育課程編成委員会」の発足後、業界関係者による客観的指導が入りより実践的内容へと大きく改善された。	指摘事項はありません。
(3)- 2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	カリキュラム・シラバスにより、教育到達レベルや学習時間数は学生・保護者に公開されている。	指摘事項はありません。
(3)- 3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	学校の教育理念に基づき、学科長が教育課程編成委員会の専門委員との協議により、業界のニーズに沿ったカリキュラムを計画・実施している。	指摘事項はありません。
(3)- 4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	業界の動向・ニーズをもとにカリキュラム作成を実施、計画段階で教育課程編成委員会のアドバイスを取り入れ実施している。	指摘事項はありません。
(3)- 5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	教育課程編成委員会によるカリキュラム評価が各期ごとに行われている。	指摘事項はありません。
(3)- 6 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	企業連携授業をはじめ、夏休みや冬休み時期を利用した企業へのインターンシップやスキルアップ講座を展開している。	指摘事項はありません。
(3)- 7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4つの評価体制（学生アンケート）（保護者会アンケート）（就職先企業アンケート）（自己点検・自己評価による学校関係者評価）	在籍する学生の満足度、保護者・就職先企業からの授業評価も高く、評価体制が適切に確立されている。

(3)- 8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	NAG教育パートナーシップ(教育課程編成委員会)(学校関係者評価委員会)2つの委員会より定期的に評価を受けている。	指摘事項はありません。
(3)- 9	成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	学則及び学生心得・細則に従い学生便覧に明記し、その基準は明確になっている。	指摘事項はありません。
(3)- 10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	各学科 目指す業界で支持されている資格・検定を重要視し、授業科目・特別授業・対策講座などを計画し資格取得・検定合格のためのサポートを実施している。	指摘事項はありません。
(3)- 11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	教員は学科の教育目標や実施方針を遂行でき、(業界レベルの人材教育)＝授業ができる人材を採用している。	非常勤講師の数を適宜増員し、教鞭に求められるスキルの学内勉強も適宜実施されており評価できる。
(3)- 12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなど取り組みが行われているか	3	本務教員は常に業界と直結した教育が行える様、企業にて研修を受講しており、兼務教員は専門業界での経験・スキルを重視した採用基準を設けている。	業界・企業との連携授業により、常に優秀な人材確保に努力されているが、担保されたものではない。中長期に渡る教員育成のシステムを検討されたい。
(3)- 13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	企業における研修の受講、業界セミナーへの参加や、学生指導の勉強会等 個人の資質にあわせた教員研修を実施	★前年度からの改善項目 指摘事項はありません。
(3)- 14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	職員一人ひとりに、新しい分野へのスキルUPも考慮してゆきたい。	専門分野のスキルUPも重要だが、新分野への知識の幅も広げておかなければならない、職員の能力開発の為に計画的に行って頂きたい。

今後に向けての学校の考え

日々の教育活動において、業界と直結する理念や方針、カリキュラムを計画的に策定する事も大切だが、職員のスキルUPが常に行われなければ教育内容は社会・業界の先端技術についてゆく事ができない。その意味において職員の研修は重要な課題と考えている。学生と職員が共に、自己の成長を実感でき、達成感や充実感のある教育環境を作ってゆきたい。

(4) 学修成果

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(4)- 1 就職率の向上がはかられているか	4	本校は就職率が非常に高く、学生の努力と担任と就職担当による日々の指導が着実に実を結んでいる。	各学科長をはじめ、キャリアサポート担当者の努力により 昨年に引き続き全国平均を遥かに超える高い就職率は高く評価する。
(4)- 2 資格取得率の向上がはかられているか	4	本校は資格取得率や検定合格率の向上を常に目指し、担当教員は高い意識を持って取り組んでいる。	各学科長をはじめ、資格対策の授業担当講師の努力と学生指導への情熱が感じられる。高く評価する。
(4)- 3 退学率の低減が図られているか	4	経済的問題・メンタル傷害など担任指導で踏み込めない問題を抱えての退学が多い保護者とも連携を図り早期に対応するよう努めている。	学生数が増え、時代の変化によりメンタル問題を持つ若者が急増している事が良くわかる。また留学生に対するサポートの難しさにも細やかに対処されている。
(4)- 4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	卒業生の活躍は広報によるOB/OG近況取材を実施、在校生に関しては社会的な活動を担任が把握し課外単位認定として評価	★前年度からの改善項目 指摘事項はありません。
(4)- 5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	OB/OGが行う授業は在校生にとって、最も身近なサクセスストーリーであり良きお手本である。機会があればイベントとして実施回数を増やしてゆきたい。	見直し改善が適宜実施されている。

今後に向けての学校の考え

就職、資格は本校の最大のアピールポイントです。これからも高い就職率・資格取得率を維持していきたい。
卒業生は本校の教育指導の結果であり、学校の評価と業界の情報収集に直結する学校の財産である。
歴代の卒業生に遡り、今後もその活躍を追い、在校生の教育活動に繋げていきたい。

(5) 学生支援

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

	評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(5)- 1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	本校は担任・キャリアサポートセンター・卒業生による「トリプルサポート」が確立されており、高い就職率として成果を出している。	指摘事項はありません。
(5)- 2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	担任は学業のみならず、生活面での相談役でなければならない。特にスクールカウンセラーを置いてのメンタルサポートに力をいれて体制づくりを進めている。	学生・保護者・担任の3者連携が緊密に取られており評価できる。
(5)- 3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	日本学生支援機構の奨学金制度活用をはじめ、校友会による(学業支援)(経済支援)を独自に整備している。	指摘事項はありません。
(5)- 4	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	毎年4月 全学生の学生健康診断を実施	指摘事項はありません。
(5)- 5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	NPO等のボランティア活動の他 今後は地域貢献活動にも学生が積極的に参加できるよう体制づくりを進める。	ボランティア等の課外活動に参加されることは非常に好ましい事であるが、学校側の積極的な斡旋・紹介となると、本来のボランティアの自主性と善意の意味が無くなってしまふ。十分考慮していただきたい。
(5)- 6	学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	特に学生の一人暮らし(健康管理・食事・洗濯・掃除・アルバイト・交友関係・心の悩み)に関するサポートをより充実させたいと考える。	保護者との連携を密にし生活環境の質を把握すると共に 支援体制を充実させていただきたい。
(5)- 7	保護者と適切に連携しているか	4	入学時に保護者会を実施し、その後は必要に応じて各学科長が保護者との連携をとる。	学生・保護者・担任の3者連携が緊密に取られており評価できる。

(5)- 8 卒業生への支援体制はあるか	3	校友会ネットワークによる「OB活動支援」の他、キャリアセンターによる「離職者の再就職相談や転職サポート」のOB専用窓口を設けている。	指摘事項はありません。
(5)- 9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	恵まれた立地と教育環境を生かし、社会人のニーズにそった講演会・セミナーを実施	恵まれた立地と教育施設を業界・企業のリクエストに答え、時間貸出す事で、より多くの社会人ニーズに適合出来るのではないか？ 今後の検討をお願いしたい。

今後に向けての学校の考え

就職サポートセンターの機能・カウンセリング体制は充実しており、高い就職率を維持している要因となっている。
 卒業生の再就職・転職の相談もインターネットによる「相談窓口のシステム」を充実してゆきたい。
 (在校生・卒業生)(日本人・留学生)(新規就職・再就職)(都市部・地方)(国内・海外)とグローバルなサポート体制が今後の課題と考えている。

(6) 教育環境

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(6)- 1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	耐震工事が完了し安全性が向上。さらに毎年 実習施設のリニューアルを行い実践教育に相応しい設備の維持更新を行っている。	耐震工事と実習施設のリニューアルは計画的に維持管理されている。反面 トイレ・空調の経年劣化が見受けられます。教育環境のさらなる整備に努めて下さい。
(6)- 2 学内外の実習施設、インターシップ 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	在校生奨学金制度により、インターシップ・海外研修の費用を負担、一人でも多くの学生が参加できるよう制度の整備を進めている。	業界・企業による有償インターシップの制度を進め、学生の費用負担を軽減できる努力を求めます。
(6)- 3 防災に対する体制は整備されているか	3	全教職員が名古屋市消防局にて救命講習を受け体制を整備している。また非常時における備品の不足や緊急対応の整備を地域と連携できるよう調整中	地域と連携した防災訓練の実施を計画していただきたい。

今後に向けての学校の考え

耐震工事完成後、地域社会に開かれた学校として、災害時の被災者2次避難場所として地域協力を検討中。
さらに、職員も日常的に危機管理意識を保つよう、積極的に防火・防災の講習会への参加を促すとともに、学生の教育方針の中にも「命を預かる責任感」を入れ防災対策のシステムを学校をあげて取り組んでいきたい。

(7) 学生の受け入れ募集

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(7)- 1 学生募集活動は、適正に行われているか	4	入学検討者に対し、パンフレット・HP・募集要項等での情報公開を行っており、高校教師・入学者とその保護者から信頼を頂いている。2年連続の入学者増加は信頼の証ととらえている。	指摘事項はありません。
(7)- 2 学生募集活動において教育効果は正確につたえられているか	4	体験入学・AOスクーリングによる入学前授業を受けて頂き、本校の教育の質とレベルの高さを募集活動の時点で確認し出願して頂いている。	指摘事項はありません。
(7)- 3 学納金は妥当なものとなっているか	4	消費税等による物価上昇の経済状況の中学納金額を据え置きにし入学者の経済的負担を軽減する学校運営を行っています。	他校比較でも全国平均と判断できます。

今後に向けての学校の考え

学生募集にもっとも必要なのは、優秀な人材を多く輩出し、高い就職率と資格取得率という「実績」と卒業生・保護者・高校教師からの「信頼」であり、それらがつくる評判形成に他ならない。
これからも確実に「実績」と「信頼」を積重ね地域に根差した社会人教育を担う学校でありたい。

(8) 財務

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(8)- 1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	専門学校を取り巻く募集環境は依然として厳しさを増しているが、見学者、在校生へのきめ細かな対応により学生の増加傾向にあり、これを継続できるよう務める。中長期的に安定した経営基盤を構築するために、経費削減を計る一方で、施設設備の充実並びに学務体制の強化を計りバランスのとれた経営を行っている。	指摘事項はありません。
(8)- 2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	年度予算は中期計画と関連して立案、目的や目標を勘案し計画達成に向けたものになっている。予算の執行については毎月実績ベースと比較し、妥当に執行されるように確認しながら、行っている。	★前年度からの改善項目 見直し改善が適宜実施されている。
(8)- 3 財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	私立学校法の規定に基づき、監事により業務、財産状況の監査を含めて会計監査が行われており、会計年度終了後2ヶ月以内に理事会及び評議員会に提出し決裁を受けている。	指摘事項はありません。
(8)- 4 財務情報公開の体制整備はできているか	3	ホームページにて公開	指摘事項はありません。

今後に向けての学校の考え

本年度 予定通りの募集人員が確保出来ていることから、学校の財務状況は安定 順調に推移しているが、教育内容の充実 実習施設のリニューアル経費の増大もあり、業務効率と経費節減に努めながら健全な学校運営を目指していく。

(9) 法令等の遵守

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(9)- 1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	新制度や規則の制定、各種届出事項などの際に多角的にチェックし、法令等を遵守する体制を構築するとともに、運用が適切に行われているかを責任者間にて検証している。	指摘事項はありません。
(9)- 2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	学校に必要な個人情報の保護を毎年の講師会において専任教員・兼務教員ともにそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めている。	内部監査を実施しており、適切に運用されている。
(9)- 3 自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	定期的に確認を行うことで発見することも多数あり、その都度レベルの向上に努めている。	問題事項の改善に積極的に取り組まれ評価できる。
(9)- 4 自己評価結果を公開しているか	4	本校としては、自己点検・評価の公開については、ホームページに公開している。	指摘事項はありません。

今後に向けての学校の考え

コンプライアンス重視の観点から、個人情報の流出事故等がないよう、教職員一人一人の意識と情報管理を徹底。全職員が互いに法令遵守と情報管理に対する厳しい視線と問題認識を持ち、責任ある行動に努めなければならないと考える。

(10) 社会貢献・地域貢献

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(10)- 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	3	災害時 2次避難場として施設(校舎)を開放する事を検討中、日常における地域貢献として要望があれば教室貸出し・市民セミナーなど協力体制を整えてゆきたい。	災害時の学校開放に関しては、今後 地域とも十分協議を重ね検討してゆきましょう。
(10)- 2 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	3	在学期間が2年の学校である為、活動期間が短いボランティアが多く評価しづらい。学校としては先輩から後輩に受継がれる継続的な地域活動を奨励・支援してゆきたい。	地域貢献(近隣ゴミ拾い活動)(挨拶運動)等 気持ちの良い学生活動をして頂き、地域住民は好意的にとらえています。これからも継続して下さい。
(10)- 3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	要請があった場合柔軟に対応する準備・体制が整っている。	★前年度からの改善項目

今後に向けての学校の考え

社会貢献は本校の社会人教育において重要なポイントとして捉えており、授業や教育イベントにおいて積極的に取り組んでいる。本校は学生の満足度だけでなく、社会や地域の声に耳を傾け、清掃活動、エコキャップ運動、災害義援金、募金活動を継続的に取り組むとともに地震・大雨・津波等の災害地に対し義援金を送り、学生の家族が被災地された場合は授業料等を奨学金で支援できるよう体制を整えてゆく。また、ボランティア活動等 積極的に奨励し、社会貢献・地域貢献を行った学生を表彰し、その功績を高く評価する。

(11) 国際交流(必要に応じて)

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校 継続・改善ポイント	評価委員会の評価コメント
(11)- 1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	3	日本語学校との連携により留学生の入画者数は年々増加している。姉妹校と就職先企業と連携し「留学生懇親会」を毎年開催、留学生就職のサポート体制を確立	名古屋4校で、留学生受け入れを促進する体制が整い留学生数が増えている事を評価します。
(11)- 2 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	入国管理局への留学生受入れ状況報告をはじめ、在留資格(ビザ更新)の確認等 留学生に必要なサポートと在籍管理を実施	指摘事項はありません。
(11)- 3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	入学時サポート(広報)在学サポート(担任)就職サポート(キャリア)複数職員で留学生(保証人)とアルバイト先(責任者)との連絡体制を密にし留学生の生活サポートを行っている。	指摘事項はありません。
(11)- 4 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	3	教育成果の発表と発信を積極的に行ってゆく 企業と連携し活動成果とグローバルな教育活動をHP・SNS等でアピールする。	地域社会では高い評価をうける学校でありながら、情報配信が足りず日本全国・海外にその存在が認知されていない。 今後の積極的活動を期待します。

今後に向けての学校の考え

2020年東京オリンピックにむけ、ますますグローバル社会化に拍車がかかる、観光業界はその中心的役割を担う業界であり本校としても国際交流にさらに力を入れ、グローバルな人財育成と教育活動・情報発信に努めていきたい。